

移住者新聞

Vol. 2



2021年6月 福岡県より移住された築地さん(左)と山田さん(右)

二〇二二年八月
発行：日田市
ひた暮らし推進室

移住したきっかけ

自然の中に住み、好きな野菜を作ってみたかったからです。特に、遊休農地を活用することに貢献したくて、ブドウの苗を地域の人手と植え、ゆくゆくは天瀬ワインをつくることを夢見ています。週一回はぶどう畑の様子を見に行っています。今は定期的にそれほど頻繁に行かなくていいですが、それでも草刈りは必要です。苗は主に一、二月の寒い時期に植えます。そして三年目で実がなります。

住まいを見つけたきっかけ

空き家バンク物件の案内に従事するNPO法人リエラさんや日田市ひた暮らし推進室のサポートを受けました。日田市空き家バンクの利用登録後、二〇二〇年十一月二十二・二十三日の移住体験ツアーに参加し、そこで出会った天瀬町塚田上班の音成自治会長のご案内の元、すぐにこちらの物件を気に入り、入居を決めました。

二人の出会い

お二人とも飲食業出身で、長崎県雲仙市の同じ職場で出会ったそうです。そして一緒に福岡へ。山田さんは築地さんについていこうと決めたそうです。山田さんは長崎県の川棚町出身。「最初は親の説得が大変でしたが、二人でどうにか話合っただけでその旨を伝えたら行ってきていいよと言ってくれました。」と山田さん。今では家族も公認のお付き合いのようです。



生活の様子

「やっぱり楽しい！今日収穫した野菜をその日に食べるなんて都会じゃできません。めっちゃおいしくて感動しました。にんじん、だいこん、なす、ピーマン、とうもろこし、トマトとたくさん野菜を作っています。」と嬉しそうな山田さん。新しい職場も見つかり、前職をしながら調理場を任されているそうです。「朝は植物に水やりをするので早起きして、そのあと仕事へ。やりがいがあるように感じますね。」と山田さん。



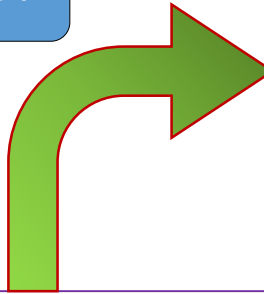
全国的に大雨が連日のように降り続き、昨年の7月豪雨を連想させるような不安な日々が続きました。新型コロナウイルスにおいても、緊急事態宣言の追加や延長の知らせに、終息の兆しがまだ見えません。一日でも早く平穏な暮らしが戻ってくることを心から願います。今号は、県外から移住してきた若者お二人の田舎暮らし取材しました。

これからのこと

「都会だと何でもあるから流されそうと思ったら流されちゃう。何かやりたいことがないと田舎はほんとに何もないので、何か好きなことを見つけて移住することが大事ですね。将来はいっぱいやりたいことがありますね。ブドウ畑作り、野菜作りは品種を絞ってうまく売れるシステムを構築したいです。」と築地さん。「私はお菓子も作れるから、できた素材を使って手作りスイーツも出してみたいです。」と山田さん。「いくつもある選択肢の中で、試行錯誤しながら何が一番伸びていくかわからないけど、できることを増やして行って、それぞれが実になっていければいいですね。」と将来の展望を抱くお二人でした。



メダカを飼い始めました！



山田さんの隣にさしてある**傘**は何なのか？
気になった人も多いだろう。

よ〜く見てみるとトマトがなる木の上に
さしている。

直接雨が**当**たるとよくないそうだ。
雨の**跳**ね返りで下のほうが病気になってしまう。
そもそも水を多く**与**えないほうがいい。

甘やかすといけない。
自分で水を求めて**根**を伸ばす。
光を求めて**葉**を伸ばす。
知る人ぞ知る**豆**知識なのだ！

お二人から
天瀬町塚田の
耳寄りな話



<田舎暮らしにあこがれる方へ>

近所の人との付き合いが大事。近所の方たちに自宅駐車場作りを手伝ってもらったり、畑のことを聞いたり、防獣の柵を作ったり・・・。いいことを教えてくれる。常会に参加することが大事。

<天瀬町塚田上班>

毎月19日に常会がある。地域の人にあいさつをして、今回は七夕の準備のため、阿蘇神社の宮掃除。地域の行事や注意事項を教えてもらう。

19時から1時間くらい。

<塚田温泉センター>

塚田温泉は気持ちがいい。泉質は単純泉ながらモール泉気味の褐色を帯びている。お湯はトロリ柔らかい。150円で入浴できる。地域住民は毎月500円払えば50円に入れる。

温泉センターの番台をしているえっちゃんにはとてもお世話になっていて、親切にしてくれる。